

平成 30 年度 第 1 回燕市総合計画審議会 議事録

日 時	平成 30 年 7 月 10 日（火）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分
場 所	燕市役所 つばめホール
欠 席	山岡委員、片岡委員、末武委員、秋澤委員

1. 開会

<事務局より開会のあいさつ>

皆様、こんにちは。

本日は、ご多用のところ、また、暑い中、ご参集いただき、誠にありがとうございます。ただ今より「平成 30 年度 第 1 回 燕市総合計画審議会」を開催いたします。私、企画財政部長の田辺でございます。議事に入るまでの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、事前に配付してあります「次第」に沿って進めさせていただきます。

次第の 2、「市長あいさつ」です。鈴木市長より、ごあいさつを申し上げます。

2. 市長あいさつ

梅雨明けしたばかりの暑い中での開催ですが、ご多用の中ご参集賜り、誠にありがとうございます。日頃、燕市政への多大なるご理解とご支援に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。第 2 次総合計画の進捗管理を皆さんにお願いしておりますが、任期の 2 年目も引き続きよろしくお願いいたします。

今年度は、7 カ年計画の 3 年目であり、来年は中間評価を予定しています。3 年目は、中間評価に向けて実績を積み上げる重要な年になると考えています。本日は、過去 2 年間の進捗状況をご説明した上で、皆さんから忌憚のないご意見を頂戴し、今年度さらに実績を積み上げていくといった方向に結びつけていければと思っています。

総合計画のベースとなっているものが、人口減少社会への対応ですが、人口の自然減、社会減ともに、当初想定したよりも拡大した状況となっています。

全国的な人手不足のなかで、首都圏への人材一極集中の拡大が社会減の背景にありますし、自然減については子育て環境の充実などに取り組んでいますが、平成 29 年度の出生数が 500 人を切ってしまいました。一昨年は 580 人くらいでしたので、1 年間で 90 人近い差が生じました。燕市としては、この人口減少問題に対し、改めて庁内組織横断的にどのような対策を講じたら良いか、プロジェクトを立ち上げ議論を始めたところです。

こういった状況もありますので、ぜひ皆様方からは、いろいろなアドバイスを頂戴したいと思います。

会長であります宍戸先生のゼミ生の皆さんが、総合計画を題材に研究されると聞いています。我々としても、若い人たちからの目で市の総合計画を見ていただいて、彼らの感覚からご意見をいただける機会を得ましたので、皆様からのご意見はもちろんです。いろいろな形で計画をしっかりと進行できるように取り組んで参ります。

限られた時間ではありますが、有効に皆様からいただいたご意見を活かしながら、今後の計画の実行に結びつけていきますので、よろしくお願い致します。

3. 新任委員の紹介

<名簿により事務局より紹介>

(会長)

皆様、改めましてこんにちは。会長を務めさせていただいております、新潟大学経済学部の宍戸でございます。本日はお暑い中、またお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。年度も替わりまして、新しいメンバーをお迎えしての審議会です。市長からのご挨拶もありましたとおり、7年計画の3年目に入るわけです。来年度は、中間年度ということで、見直し、中間評価を控えています。そのような中で、皆様からの忌憚のないご意見を頂戴し、よりよい燕市の計画に繋がるよう期待していますし、ご協力をお願いします。

先ほどの市長からのお話にもありましたが、当方の学生2年生および3年生が後ろで傍聴させていただいておりますので、何卒よろしくお願い致します。

本日も会議がスムーズに進みますよう、皆様方のご協力をいただきたいと存じますので、よろしくお願い致します。

4. 報告

(1) 市民意識調査の調査結果について

<事務局より資料1の説明>

<質疑応答>

(会長)

何か委員の皆さんから意見や質問はないか。

(委員)

7ページの「市外に引っ越したい理由」で、交通の便が悪いからが1位、11ページでは「地域の魅力自慢できるところ」の3位に「道路や鉄道の便が良い」がある。相反する結果となっているが、年齢階層別に分析はしているか。全く想像だが、「交通の便が悪い」というのは、バス路線などが貧弱なのかなと。「道路や鉄道の便が良い」の方は、JRや高速道路のことなのかなと思う。高齢者は交通弱者と呼ばれているが、交通の便が悪いからといって、市外に引っ越したいと思うのかな、といったような疑問が出てくる。公共交通の道路や鉄道ではない、バス路線などに力を入れていくのが大事なのかな、と思う。

(事務局)

▶年代別に分析したところ、7ページの「交通の便が悪いから」では、年代による傾向があ

まり見られなかった。大雪の影響による道路障害の影響もあるのではと考えてる。また、地域別には、燕西小学校区、吉田小学校区、分水小学校区などの市街地の方の回答が多かった。11 ページの「道路や鉄道の便が良い」については、60 歳代、70 歳代が多かった。今後もクロス集計や経年変化を分析していく。

5. 協議題

(1) 第 2 次燕市総合計画成果指標の平成 29 年度達成状況について

<事務局より資料 2 の説明>

<質疑応答>

(委員)

5 ページの「医療サービスの機能強化」について、先ほどの市民意識調査においても重要度が高いが満足度が低いという結果であった。医療というものは、どこまでやっても不安が残るものであり、ある程度不安を持つ方が一定程度いるのは仕方がないものだと思う。しかし、要因分析にある県央基幹病院の基本計画が公表されたことだけでも、わずかに改善したという分析となっている。まさに市民に対する説明。今後の高齢化、人口減に対し、どのような医療が必要とされるのか考えていかないといけないが、今後も説明が重要であると考えている。

(事務局)

▶ 情報開示や分かりやすいが説明が大切であると考えているので、今後も取り組んでいく。

(委員)

11 ページの外国人観光客の件（外国人観光客が増加している）だが、市内で外国人を見かけることがほとんどない。基準はなにか。外国人はどちらに行っているのか。

(事務局)

▶ 指標としている「外国人観光客の入り込み数」だが、燕三条地場産業振興センターへの入り込み数となっている。確かにまちなかにはあまりいないが、観光客が入る施設、特に地場産センターでは、平成 27 年に免税店化、平成 28 年 3 月からは道の駅としてオープン、昨年からは荷物の預かりサービス「手ぶらで観光」を行っている。そういったことから、数値が伸びているものと考えている。主に中国、台湾、韓国などのアジアから、次に北米からの観光客が多い。

(委員)

15 ページの「特定空き家等の件数」だが、燕市だけではなく全国的な問題である。犯罪に使われたり、放火をされたりする。随時、危険な状態のものをよくしていくことは非常に大事なこと。説明欄に、「助言指導などにより引き続き危険な状態の空き家を解消したい」と記載があるが、具体的にどのようにやっていくのか。

(事務局)

- ▶ 具体的な助言指導だが、空き家と確認されると、市から納税通知書を送付する際に、「空き家になっているので、管理をするように」といった文書を同封している。また、周囲の人に迷惑がかかっている場合は、所有者に対し電話や訪問を行い、管理をするように指導を行っている。

(委員)

せっかく地場産センターへの外国人観光客が増えているのであれば、燕市はオープンファクトリーなどもあるし、買い物が出来るところがたくさんあるので、そういうところに誘導できるような施策を展開すれば、吉田や分水地域などにも訪れることができるのではないかと。わざわざ外国にまでプロモーションにいかなくても来てくれているのだから。

(事務局)

- ▶ インバウンドについては、2020年のオリンピックに向けて外国人観光客が増えていくので、検討したい。

(委員)

「病児病後児保育施設」について、各地区に1箇所ずつ拠点を設けることになっていたが、その進捗について伺う。

(事務局)

- ▶ 現在は吉田地区に1施設となっている。感染症の流行時期は定員に達し、お断りすることもあるが、それ以外は1日あたり8人の定員に対し、3人程度の利用となっている。定員に達するときもあるので、他の地区にもという要望はいただいているが、今後も1施設で継続していく方針である。

(委員)

私としては各地区に必要だと思っているが、それを利用しなくてもいい家庭環境、社会状況の整備ができればなお良い。

(副会長)

15 ページ「特定空き家等の件数」、若干増えたとのことだが、平成28年23件、平成29年11件の解消は、他都市と比べるとかなり積極的に実施しており、非常に評価できるものである。同ページ「移住・定住人口数」についても、他都市では転入人口がないなかで、実績が上がっている数値である。

14 ページ「バスや鉄道などの公共交通の充実に対して不満と答えた人の割合」だが、先ほどの市民意識調査の結果とは違う数値がここでは使われているようだが、この要因分析に「公共交

通空白域があり、満足度を下げているものと推測される」とある。先ほどのクロス集計による分析と違うように感じた。空白域の方が不満と答えているのか、もしくは高齢者が答えているのかといった分析をしているか。

(事務局)

▶ 資料1の26ページをご覧ください。下の表のピンクの四角マークが公共交通対策の満足度となっている。年々重要度が増加している。これは交通弱者と呼ばれる高齢者の増加と相まって、増加しているものと考えている。それと反比例するように、不満と答えた人が増加しているものと考えている。地域的な要因については、小学校区別に分析したところ、燕西小学校区、小中川小学校区、分水小学校区の不満度が若干高くなっている。これらの地区は、空白域もしくは交通の便が悪い、バスの便が少ない地区と合致することから、このような要因分析とした。

(副会長)

最終目標値が33%となっている。6割弱の方が不満を持っているとなると、達成にはかなり厳しい目標値なので、引き続き検討と対策をしていく必要がある。

(2) 燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理及び地方創生交付金活用事業の効果検証について

(会長)

まず事務局から、【資料3・地方創生関係交付金活用事業の効果検証について】および【資料4-1・燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略・2017年度進行管理表】の表の見方を説明していただきたい。交付金活用事業については、事業ごとに審議会としてKPI（重要業績評価指標）の達成に有効であったか否かを判断する必要があることから、事務局は4～5事業をまとめて説明、その後、審議会としての検証を行い、それを3回繰り返すこととする。

<事務局より資料3の説明、資料4の見方の説明>

<事務局より資料4のプロジェクト1 しごとにある5事業の説明>

(会長)

まず7ページの「燕三条ものづくりメッセ」について、事務局としては地方創生に効果があったとしているが、これについて質問などはないか。

(会長)

製造品出荷額は昨年比べて伸びているし、出展者及び来場者の増加を根拠に地方創生に効果があったと導き出されていることからすると、総合戦略のKPIに貢献したと考えるが、いかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

(会長)

続いて9ページ「次世代産業育成支援事業」について、産学官連携などによる共同研究数は目標1件(2019年度3月末)に対してまだゼロ。ただし、いろいろと事業を行っており、製造品出荷額は増加しているし、現在進行形であることからすると、総合戦略のKPIに貢献したと考えるが、いかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

(会長)

続きまして11ページ「燕市ものづくり品質管理制度(TSO)」について、評価としては新たな認証事業所が伸び悩んでいるが、結果として新規3社、辞退2社で、累計51社となったことは評価できるのではないかと考える。やはり品質管理の必要性は十分ある。製造品出荷額に関連しているとなると、KPIの達成に有効に働いたのではないかと考える

(委員)

TSOは燕商工会議所の工業部会で、ISOの取得は相当費用と期間がかかるので、中小企業において費用と期間をかけずに品質管理のノウハウを勉強する意味で立ち上げたもの。立ち上げた時はそれなりの努力をしたが、補助金がもらえないということで、市に事業を移管した。当社も取得した。成果はあるが、結果としてTSOはレベルが低いため、成果を具体的にあげるにはTSOだけではだめ。各事業所がそれなりの負担金と人員を要して、本格的に取り組まなければ成果は見込めないと思う。全くやらなければ、大手の企業から下請けの仕事ももらっても、品質管理の知識もないのかとバカにされる。そういうレベルからすれば、燕版ISOを目指す趣旨には賛同するし、2代目3代目が会社を継いでいる人たちにとっては有効だったのではないと思う。市がやるのであれば、中途半端なことはしないで、ISOの取得を目指すという意欲のある事業所に対し、しっかりとした補助金を出せば、更に成果があがると思う。

(事務局)

▶ TSOは、平成23年に燕商工会議所で始めた事業。燕市は中小の企業が多いので、ISOに比べて負担が少ない品質管理ということで始まったもの。年々取得企業が減少しているが、事業者の交流会を開催したりして、どうやったら取得企業が増えるのか知恵を出し合っている。市内企業の品質管理をあげるというのが目的なので、ご指摘の点も含めて検討していきたい。

(会長)

目的は燕市内の製造業の品質管理の向上であることからすると、TSOは目的に適っているのかは常に検証する必要がある。地方創生においては、なんらかの効果はあるとうことなので、

K P I 達成に有効であったということにしたいが、いかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

(会長)

続きまして14ページ、「つばめ創業支援事業」について、利子補給を行うということだが、ご指摘、ご質問はないか。

(委員)

効果については疑問視していないが、事業内容について、「本市の特徴である『ものづくり』関連をはじめとする」とある。市としてはものづくり関連の創業を期待しているのかと思うが、評価では小売業やサービス業を目指す方が多かっただけとなっている。去年も全く同じ事が書いてあった。また、今後の取組・改善点に書いてある「経営ノウハウ、資金調達、技術向上などを総合的に支援していきます」は、事業内容に書いてある「経営ノウハウ、資金調達、技術向上等をパッケージで支援します」と同じではないか。これでは来年度も同じ結果になるのではないかと思っている。ものづくりは設備投資が必要なので、小売業やサービス業よりは難しいと思うが、方向転換して、小売業・サービス業の創業を誘発するのも地方創生にとって重要なことなので、それでもいいというのであれば、そういった方針にすればいい。やはり燕の基幹産業はものづくりだということで、そういった創業を目指すということであれば、それなりの成果評価分析をして、それにあった取組み、改善を目指すべき。

(事務局)

- ▶ 成果指標の在り方については、中間評価に向けて考えていきたい。この事業の中心的な役割の創業講座は、金融機関と市で行っていて、今年で5年目となる。講座の内容が製造業よりも小売やサービス業を生み出すような内容となっており、今年は区切りとなる年でもあるので、来年度以降の創業に対する支援は、今年を踏まえて検討していく。ものづくりの事業所を増やしていくことは重要だと考えている。創業した人の中には、溶接などで独立している人が徐々に増えているので、ものづくりでの創業が増えるように知恵を出していきたい。

(委員)

新規事業を起こすのは簡単なことではない。市役所や商工会議所が相談窓口を持っているから新規事業が成功するというものでもない。新潟県は全国の中でも創業が少ない。行政が旗を高く掲げて、創業の意欲のある方がいたら、いろいろな形で支援できるバックボーンがあるということを手前にアピールすれば、次の世代に繋がる。ものづくりだけが燕の産業ではない。効果があったとか無いとかいう話しの前に、旗を掲げていることが一番大事だと思う。

(事務局)

- ▶ 取組内容に記載のある「ローカルイノベーション」であるが、先週土曜日にT S U B A M E H A C K !を開催した。若手やクリエイターなどを中心に、ゆくゆくは創業できる形での取組みも行っている。今後、若い人が安心して創業できる仕組み作りも考えていきたい。

(会長)

市としての施策の説明や、若手への支援を掲げていく必要性は引き続き重要である。そういったことを踏まえて、地方創生推進交付金での事業が効果というよりも、支えるという意味において、なんらかの形で寄与したところがあるのではないかと思うので、K P I達成に有効であったということにしたいが、いかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1.総合戦略のK P I達成に有効であった」とする。

(会長)

続きまして15ページ、「農力アップ・コスト低減に向けたチャレンジ支援」について、ご指摘、ご質問はないか。

(委員)

燕市はものづくりのまちで、工業関係が非常に大きな割合を占めているが、農業も調和のとれた地域、緑豊かな、安全安心な農産物をつくる産地でもあるということをお忘れはならない、なおざりにしてはならない課題かと思う。農業生産地として、例えば本町のきゅうりなどは、若手ががんばっている。飛燕舞をはじめとして、がんばっている人もいる。おいしい野菜をたくさん作っているのだから、農業についても、チャレンジファーマーという制度もあるが、若手は少数でもある。定年退職して農業をする人もいるし、生産組織としてがんばっている法人もある。若い人向けの支援も結構だが、中高年にも光が差すような政策をお願いしたい。

(事務局)

- ▶ 市としては事業を年齢で区切っていない。新しい取組みを一生懸命する人を応援しようという事業で組み立てている。新しく販路の開拓に取り組んだり、お米では、田植えの移植栽培ではなく直播栽培など、現状のやり方とは違う、新たなチャレンジを応援しようという立場の事業。若手だけを対象としているわけではないので、ご安心いただきたい。

(会長)

K P Iを見ると数値が下がっている。しかしながら、いろいろな取組みによって、今後の農業経営における環境づくりにプラスとなっているという言い方もできる。見方を変えれば、チャレンジファーマーの申請件数が減ってはいるものの、あることはある。あるということなので、地方創生推進交付金を活用した事業としては、なんらかの貢献はしたのではないかと思うので、

K P I 達成に有効であったということにしたいが、いかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

<事務局より資料4のプロジェクト2 ひと にある4事業の説明>

(会長)

17 ページの就労支援について、ご質問、ご指摘はないか。

「インターンシップ利用者数」も伸びているし、まさにK P I 達成に有効であったと言えると思うがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

(会長)

続いて 19 ページ、K P I の「ハッピーパートナー企業に登録された数」は変動なしだが、一方で「女性創業者数」が増えているのは注目に値すると思うがいかがか。

(委員)

私たちは、「活動☆つばめこまち応援隊」を結成し3年目になる。今年度、3カ年の活動をまとめて、市に提言する方向で進めている。いかに燕で働きたい人を増やすかということテーマにやっており、それが女性にとってどういうことなのか、例えば病児保育であったり、働く環境だったりなど、職場でアンケートを実施し、市の方やメンバーと何をしたら具体的にやれるんだろうと協議している。県内では、私たちのそういった取組みが進んでいると評価されており、毎回の会議も充実させて取り組んでいるので、この場を借りてご報告させていただく。

(会長)

他にご意見、ご質問はないか。数値として出ているので、地方創生に効果があった、ゆえにまさにK P I 達成に有効であったと言えると思うがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

(会長)

続きまして 22 ページ、「母子保健支援サポート事業」。ワンストップ総合相談窓口やアンケート調査となっている。どちらかというとアウトプットのK P I だが、目標値には達していないものの、昨年と比較すると実績値は上がっている。事務局からの指摘にもあったとおり、実態把握にせよ、窓口の体制整備にせよ、すべてのK P I に効果があったと思うがいかがか。

- ▶ 委員から異議なし。
- ▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

(会長)

続きまして 24 ページ、「子育て世帯生活支援事業」。これについてご指摘やご質問はないか。センターの参加者数はまだ増えていないものの、満足度はわずかにせよ伸びているとすれば、K P I に効果があったと思うがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

<事務局より資料4のプロジェクト3 まち にある4事業の説明>

<事務局より資料4のフラッグシッププロジェクトにある1事業の説明>

(会長)

27 ページ、「観光産業の推進」について、ご指摘、ご質問はないか。これについては、K P I を見ても数値が伸びていることから、K P I 達成に効果があったと思うがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

(会長)

続きまして 29 ページ、「インバウンド観光の推進」。ご指摘などはないか。これは前半の部分で議論があったことだが、数値が伸びているし、事務局も非常に効果的であったとしているので、K P I 達成に効果があったと思うがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1. 総合戦略のK P I 達成に有効であった」とする。

(会長)

続きまして 32 ページ、「工場の祭典」。これもK P I を見ると数値が増えているので、事務局も非常に効果的であったとしているが、ご指摘、ご質問はないか。

(副会長)

非常に効果的な事業で、たくさんの方が来られているのは伝わった。だが、今後の改善点にある二次交通の問題で、改善の必要があるという風に書かれている。これからも数値を上げていくとなると、かなりの課題かと思うが、どのように考えているのか。

(事務局)

▶ 県外からの来場者もかなり多い中で、一昨年から本格的にレンタルサイクルをやっている。三条、燕地区はかなり広いので、駅を降りてからの移動が課題。工場の祭典実行委員会が主体的に事業を実施しているので、一緒に考えていきたい。

(副会長)

▶ こちらも上手くいくとPRになると思うので、引き続き検討されたい。

(会長)

これも数値は伸びているので、KPI達成に効果があったと思うがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

(会長)

続きまして33ページ、「中越文化・観光振興事業」。これについて、ご指摘、ご質問はいかがか。KPIだけを見ると、あまり増えていないようだが、燕としての観光客入込数は増えているし、取組みはいろいろとやっているのので、有効でないと言えないと思うので、KPI達成に効果があったとしたいがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

(会長)

最後に42ページ、「スポーツイベント誘致による交流人口の拡大」。ご指摘やご質問はないか。これはKPIが伸びているので、KPI達成に効果があったとしたいがいかがか。

▶ 委員から異議なし。

▶ 審議会として「1.総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。

6. その他

(会長)

何か、これまでの質疑、質問なども含めて、ご指摘、ご発言はないか。ないようであれば、事務局から事案はないか。

(事務局)

今後の予定だが、今回、委員の皆様からご審議いただいた内容は、市議会に報告するとともに、市の公式ウェブサイトにて公開させていただく予定としている。また、今年度の審議会は、今回のみの予定となっている。皆様の任期は今年度末となっているので、また、時期になったら委嘱替えの相談もそれぞれさせていただきたい。

7. 閉会

これで本日予定していた議事は全て終了した。以上をもって、平成30年度第1回燕市総合計画審議会を閉会する。